

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|-------|--------|
| 事業所番号 | 0471200618 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 元気村 | | |
| 事業所名 | 南方グループホーム翔裕園 | ユニット名 | はなしょうぶ |
| 所在地 | 宮城県登米市南方町山成前791-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 4 年 8 月 11 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様については加齢に伴うADLの低下、認知症の進行に伴い今までできていた事が少しずつ難しくなってきました。その中で入居者様一人一人の残存能力に応じた適切な支援を行う事で役割活動を継続していけるよう心掛けております。役割を持ち続けられる事の重要性を職員自身も十分に理解しながら取り組んでおります。コロナ禍という事もあり電話にて定期的に本人様の状態報告を行い、理解して頂ける機会を設けております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは南方千本桜の並木道にほど近い登米市南方町近郊にある。社会福祉法人元気村が運営する介護老人保健施設や居宅介護支援・デイケア・ショートステイ・訪問リハビリと同敷地内にあり、委員会活動や防災訓練、行事等全事業所が一体となって活動している。職員が明るく気さくに接している。各種行事等における入居者の様子を中心とした「はなしょうぶ・きんもくせい」の便りは、家族の皆さんの安心につながっている。入居者の出来る事ややりたい事を理解し、茶道クラブ活動や調理の手伝い等、生きがいを持って暮らせるよう支援をしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和 4 年 9 月 6 日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 南方グループホーム翔裕園)「ユニット名 はなしょうぶ」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 年度毎に目標を設定している。継続する必要がある目標は継続し、新たに設定する目標についても職員間で共有している。 | 法人元気村の基本理念を基に、4月の職員会議でホーム独自の目標を設定した。感染対策の強化を行いコロナ禍でも出来る事を模索しながら、入居者に笑顔になってもらう行事作りをしていく事等を掲げ各ユニット事務所に掲示している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍という事もあり、ZOOM使用にて定期的に地域の幼稚園や保育所等と交流の機会を設けている | 「認知症サポーター養成講座」の講師になり、認知症になっても暮らせる町づくり等の話をし、住民と交流を図った。高校福祉科の生徒が見学に来た際に、入居者が「頑張ってる」等の声を掛けていた。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | キャラバンメイト資格保有職員による認知症サポーター養成講座開催。認知症に対する理解の啓蒙活動行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 委員の方々の意見を活かせるよう、サービスの向上に努めている | 市職員や南方包括職員、区長、家族代表がメンバーである。コロナ感染状況を見ながら開催したり、書面会議をした。ホーム内での事故件数が減少した事について、引き続き安全に過ごせるようにとの意見があった。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 疑問点や質問がある際には保険者へ積極的に確認している。 | 長寿介護課に、加算について相談したり、コロナワクチン接種について情報を貰い、4回目接種を終了している。地域包括支援センターには、キャラバンメイトの養成講座開催について地域情報を貰った。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部研修や内部研修に参加。参加できない職員へは資料を回覧し、報告書を作成。老健と合同の虐待防止、身体拘束廃止委員会を設置している。 | 毎月法人全体で「身体拘束・虐待防止委員会」の会議がある。ホームに持ち帰り、スタッフ会議で共有している。身体拘束・虐待行為等11項目を確認するラウンドチェック表を用いた抜き打調査を行い、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修や内部研修に参加。参加できない職員へは資料を回覧し、報告書を作成。老健と合同の虐待防止、身体拘束廃止委員会を設置している。 | 事故対策委員会があり、事故やヒヤリハット発生時の職員の配置、性別、介護度、場所、時間帯等を詳細に把握、分析し見直しをする事で、事故防止対策を行っている。近年では事故発生が減少している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員自身が利用者の権利を侵害していないか、会議にて振り返り行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約(解約)時は十分な時間をかけて理解・納得して頂けるよう説明している。疑問点などがある際には面会時など随時補足説明行っている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様との会話を大切にしており、その中から本人様が今何を望んでいるかを把握するようにしている。また家族様に対しては苦情窓口を設置し、職員へ話しにくい際には外部の相談窓口がある事を説明している。 | 入居者と電話をした家族から、認知症が進んだように感じた為、生活改善をして欲しいと要望があった。病後である入居者の体調観察をしながら、おしぼりたたみや花紙工作等をし残存機能を活用出来るよう支援した。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月第4金曜日にユニット会議を開催。その中で意見集約し、業務に反映できるようにしている。 | 職員からシャワー浴の入居者がスムーズに入浴できるようリフト浴を設置する要望が出た。現在導入待ちである。個室担当職員から入居者の靴や歯ブラシの消耗品の買い替えの相談や意見がケアに反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個人面談にて実績や努力してる点を評価している。悩みがある際は随時対応し、職員のモチベーションアップに努めている。メンタルチェックのアンケートも定期的実施している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内外の研修を積極的に参加してもらうよう啓発し個々のモチベーションアップに努めている。 | | |
| 14 | (9) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 宮城県グループホーム協議会に参加し、交流の場を設けている。 | 法人内でコロナ感染症対策や介護加算についてのリモート研修会に参加し交流を図った。敷地内にある事業所とは、合同での会議や行事を開催しており、日常的に介護職員間の交流がある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 相談や実態調査の際本人様のお話を傾聴し、家族様を含め担当CMから情報頂き、信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 相談や実態調査の際本人様のお話を傾聴し、家族様を含め担当CMから情報頂き、信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | その時々状態に応じて、必要時は併設施設の老健、デイケアのサービス内容を説明し、他サービス利用も含めた対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 残存能力を活かして頂けるよう、畑仕事や食事作り、家事仕事等、利用者様にアドバイスを求めたり、喜びや達成感を共有できるよう支援している。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族様も知らない本人様の一面を引き出し、家族様へお伝えする事で共に理解し、支えていける関係性の構築に努めている。 | | |
| 20 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍ではありますが、可能な範囲での面会(通信機材を用いたの窓越し面会)にて交流して頂き、馴染みの方との関係性を継続していけるよう支援している。 | 3カ所の理美容師が来訪している。各入居者が馴染みの所と契約をしている。入居者が、行き慣れ親しんだ南方千本桜や平筒沼へ行き、記憶の想起をしてもらっている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 必要に応じて職員が仲介し、利用者様同士がより良い関係を継続できるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後(契約終了後)でも利用者様、家族様には何か困った事があれば相談してほしい旨お伝えし、継続的な関わりができるよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人様の生活の様子を観察し、会話の際の潜在的な希望の聞き取りができるよう努めている。その希望が実現可能かどうか検討し、家族様」の固有力が必要な際には随時相談している。 | 日常の何気ない会話から汲み取っている。「息子や孫に会いたい」等には、家族と連絡を取り電話で話しをした。役に立つことをしたい方には、軽い家事作業をしてもらい、自信を持って生活出来る様支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人様、家族様、担当CMより聞き取りを行い、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の暮らしの現状把握に努め、毎月のユニット会議にて総合的な把握に繋げている。 | | |
| 26 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人様の発言や行動、家屋に対する希望などを反映した利用者様本位の介護計画を作成している。また、モニタリングを行い、更新時には評価行っている。 | モニタリングとプラン作成は、3か月毎に行っている。家族の「やれる事は自分で」の要望があり、下肢筋力低下の方の手引き歩行を取り入れたり、洗濯物たたみ等の残存機能を活かす等をプランにした。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子を個々の支援記録に記録している。また、独自の個別生活表やサービス内容チェック表を活用し介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 医療的な支援が必要と思われるときは併設施設の看護師に指示を仰ぎ対応するなど事業所の多機能性を活かした支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 年2回の消防訓練やボランティアの依頼等協力しながら支援している。 | | |
| 30 | (13) | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居後も変更することなく、なじみのかかりつけ医の診察を受けている。 | 殆どの方が入居者前からのかかりつけ医に職員同行で受診している。受診後、家族に電話で報告をしている。コロナ禍前は、家族同行の受診であった。歯科は、必要時は歯科医が訪問診療をしている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設施設の看護師に相談したり、診てもらった事で日常の健康管理に役立っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中は本人様に面会すると共に病院の相談員と密に連携し本人様、家族様の意向を反映させた再入居を検討している。 | | |
| 33 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 定期的に面談を実施し、重度化した場合本人様にとってどこで過ごすのが一番良いのか必要に応じて話あっている。 | 「重度化・終末期(看取り)に関する方針」を文書化し、入居時に説明し同意を得ている。ホームでの生活が困難な場合や終末期と判断された場合は、他の施設等への入所支援がある。重度化の際は、家族や本人にとって不安やストレスの無い環境作りを目指している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時のマニュアル作成し、職員がいつでも閲覧可能な状態にしている。またADLなどの内部研修も実施している。 | | |
| 35 | (15) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 各災害のマニュアル作成している。火災訓練では併設施設と協力し、避難訓練を実施。水害対策など都度連絡体制及び初動を見直している。 | 地域との協力体制は、区長を通じ築いている。防災環境委員会があり、地震時の見回りや施設内の不備の点検、非常用食品の賞味期限、備品等の数量の確認を行っている。過去1年間での避難訓練は1回であった。 | 感染拡大のため延期になっていた防災訓練の避難訓練を早期に実施していただきたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (16) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 事業所の広報誌に写真を掲載する為、契約時に同意書の記入依頼すると共に個々のプライバシーに配慮し、記録に他者の事を記録する際はイニシャルにて対応している。 | 入室時は、ドアをノックし声掛けをしている。入居者や家族の要望で居室前の名札(氏名)を出さず、銀杏など植物の名札を出すなど居室を間違えないよう配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様が思いや希望を表せるよう、個々に合わせた声掛け、働き掛けを対応を心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様のバックグラウンドを把握、意向を優先し散歩や余暇活動、入浴、食事、クラブ活動などを支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者様個々のお好みにお任せしている。衣類選びに支援が必要な方については本人様の意向を確認した上で一緒に選んでいる。理美容は施設サービスを利用している。 | | |
| 40 | (17) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や片付けを一緒にしている。自分の役割として積極的に行って頂いている。食事の形態については咀嚼、嚥下しやすいよう調理しており、誤嚥防止の為食前には口腔体操を取り入れている。 | 献立は職員が入居者の好みや季節を感じる食材を取り入れ作成している。法人の栄養士に栄養のバランス等の相談をしている。ホームの開設記念日に寿司を食べたり、行事食は御膳風にして工夫をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事制限や食事バランスについては栄養士が行っている。また水分補給の機会を設けて脱水予防に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 日常の口腔洗浄は利用者様が各自行っている。支援が必要な方に関しては職員が対応している。外出から戻った際にはうがいをして頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (18) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 失禁の多い方に関しては個別生活表を活用し排泄パターンの把握、早め早めに誘導を行う事で失敗が少なくなっている。 | 個別生活表で水分摂取量や排尿間隔、量を把握し入居者に合わせた、声かけ誘導をしている。夜間ポータブルを使用している方がいる。日中は全員の方がトイレを使用している。主治医の指示で排便コントロールをしている方がいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分を自由に摂る事ができるように食事や間食時に配慮している。ウォーターサーバーを設置。また、ヨーグルト提供しており、散歩や体操行い体を適度に動かせる機会を設けている。 | | |
| 45 | (19) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 利用者様の個々のタイミングに応じて入浴を楽しんで頂いている。気分が乗らない方に関しては意向を尊重しつつ、清潔が保持できるよう声掛けの工夫を行っている。 | 入居者の希望する時間帯に週3回入浴をしている。シャンプーやボディソープは、備付けの物を使用している。面倒を理由に入浴を嫌がる方には、「薬を塗りましょう」等の声掛けを工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の適度な余暇活動にて生活リズムを作ってもらっている。午睡される方に関しては長時間にならないよう声掛け行い、夜間に熟睡できるよう配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師の指示を確認すると共に薬の効能をよく理解して利用者様が安心して服薬できるよう支援している。飲み忘れや誤薬防止の為に服薬チェック表を活用している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の残存能力と意向を確認し、役割を持って生活できるよう支援している。行って頂いた際には感謝の言葉を忘れず、喜びや張り合いを持って頂けるよう支援している。 | | |
| 49 | (20) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 感染症対策行いながら天気の良い日には散歩に出かけ、地域への外出ドライブ行っている。 | 職員とゴミ出しをしながら敷地内を散歩したり、庭で紫蘇の葉や茗荷の収穫を楽しんでいる。天気が良い日は、車椅子使用の方も一緒に散歩をしている。保育所の子供達と出会った時は、手を振りあい笑顔になっている。戸外で生き活きと過ごせる支援をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的には職員が管理している。自己管理を希望される方に関しては、ご家族様に了承をもらい管理して頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族様が遠方や面会の頻度が少ない方について本人様のコメントや様子を観察し、ご家族様から本人へ電話など頂けるよう配慮している。 | | |
| 52 | (21) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の行事(ひな祭り:段飾り。七夕:竹飾り正月:水木、門松等)視覚から季節を感じて頂ける空間づくりに努めている。壁には広報紙や行事の写真を展示している。 | 日中は食堂兼リビングで過ごしている。ひな祭りには段飾り、七夕祭りには吹流し飾り、季節感を出せる空間作りに努めている。洗濯物たたみや調理の手伝いをしたり、新聞を読んだりしている。入居者にとって居心地の良い場を整えるよう心掛けている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | サロンにはソファを設置し、気の合う方々と会話を楽しんで頂けるよう、しつらえ行っている。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時にはできるだけ自宅にて使い慣れたものや好みの物を持ち込んで頂けるように働き掛け行っている。必要と思われる物に関しては都度家族様と相談し、用意させて頂いている。 | 洗面台やクローゼット、ベッド、エアコン、カーテンが備付けてある。使い慣れた筆筒やテレビ、家族の写真、位牌等を持ち込んでいる。本を読んだり日記を書いたり、その人らしく安心して過ごしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下やトイレに手すりを設置。浴槽内には滑り止めマット使用するなど安全な環境整備に努めている。 | | |

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|-------|--------|
| 事業所番号 | 0471200618 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 元気村 | | |
| 事業所名 | 南方グループホーム翔裕園 | ユニット名 | きんもくせい |
| 所在地 | 宮城県登米市南方町山成前791-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 4 年 8 月 11 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様については加齢に伴うADLの低下、認知症の進行に伴い今までできていた事が少しずつ難しくなってきました。その中で入居者様一人一人の残存能力に応じた適切な支援を行う事で役割活動を継続していけるよう心掛けております。役割を持ち続けられる事の重要性を職員自身も十分に理解しながら取り組んでおります。コロナ禍という事もあり電話にて定期的に本人様の状態報告を行い、理解して頂ける機会を設けております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは南方千本桜の並木道にほど近い登米市南方町近郊にある。社会福祉法人元気村が運営する介護老人保健施設や居宅介護支援・デイケア・ショートステイ・訪問リハビリと同敷地内にあり、委員会活動や防災訓練、行事等全事業所が一体となって活動している。職員が明るく気さくに接している。各種行事等における入居者の様子を中心とした「はなしようぶ・きんもくせい」の便りは、家族の皆さんの安心につながっている。入居者の出来る事ややりたい事を理解し、茶道クラブ活動や調理の手伝い等、生きがいを持って暮らせるよう支援をしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和 4 年 9 月 6 日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 南方グループホーム翔裕園)「ユニット名 きんもくせい」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 年度毎に目標を設定している。継続する必要がある目標は継続し、新たに設定する目標についても職員間で共有している。 | 法人元気村の基本理念を基に、4月の職員会議でホーム独自の目標を設定した。感染対策の強化を行いコロナ禍でも出来る事を模索しながら、入居者に笑顔になってもらう行事作りをしていく事等を掲げ各ユニット事務所に掲示している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍という事もあり、ZOOM使用にて定期的に地域の幼稚園や保育所等と交流の機会を設けている | 「認知症サポーター養成講座」の講師になり、認知症になっても暮らせる町づくり等の話し、住民と交流を図った。高校福祉科の生徒が見学に来た際に、入居者が「頑張っ」等の声を掛けていた。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | キャラバンメイト資格保有職員による認知症サポーター養成講座開催。認知症に対する理解の啓蒙活動行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 委員の方々の意見を活かせるよう、サービスの向上に努めている | 市職員や南方包括職員、区長、家族代表がメンバーである。コロナ感染状況を見ながら開催したり、書面会議をした。ホーム内の事故件数が減少した事について、引き続き安全に過ごせるようにとの意見があった。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 疑問点や質問がある際には保険者へ積極的に確認している。 | 長寿介護課に、加算について相談したり、コロナワクチン接種について情報を貰い、4回目接種を終了している。地域包括支援センターには、キャラバンメイトの養成講座開催について地域情報を貰った。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部研修や内部研修に参加。参加できない職員へは資料を回覧し、報告書を作成。老健と合同の虐待防止、身体拘束廃止委員会を設置している。 | 毎月法人全体で「身体拘束・虐待防止委員会」の会議がある。ホームに持ち帰り、スタッフ会議で共有している。身体拘束・虐待行為等11項目を確認するラウンドチェック表を用いた抜き打調査を行い、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修や内部研修に参加。参加できない職員へは資料を回覧し、報告書を作成。老健と合同の虐待防止、身体拘束廃止委員会を設置している。 | 事故対策委員会があり、事故やヒヤリハット発生時の職員の配置、性別、介護度、場所、時間帯等を詳細に把握、分析し見直しをする事で、事故防止対策を行っている。近年では事故発生が減少している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員自身が利用者の権利を侵害していないか、会議にて振り返り行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約(解約)時は十分な時間をかけて理解・納得して頂けるよう説明している。疑問点などがある際には面会時など随時補足説明行っている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様との会話を大切にしており、その中から本人様が今何を望んでいるかを把握するようにしている。また家族様に対しては苦情窓口を設置し、職員へ話しにくい際には外部の相談窓口がある事を説明している。 | 入居者と電話をした家族から、認知症が進んだように感じた為、生活改善をして欲しいと要望があった。病後である入居者の体調観察をしながら、おしぼりたたみや花紙工作等をし残存機能を活用出来るよう支援した。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月第4金曜日にユニット会議を開催。その中で意見集約し、業務に反映できるようにしている。 | 職員からシャワー浴の入居者がスムーズに入浴できるようリフト浴を設置する要望が出た。現在導入待ちである。個室担当職員から入居者の靴や歯ブラシの消耗品の買い替えの相談や意見がケアに反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個人面談にて実績や努力してる点を評価している。悩みがある際は随時対応し、職員のモチベーションアップに努めている。メンタルチェックのアンケートも定期的実施している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内外の研修を積極的に参加してもらうよう啓発し個々のモチベーションアップに努めている。 | | |
| 14 | (9) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 宮城県グループホーム協議会に参加し、交流の場を設けている。 | 法人内でコロナ感染症対策や介護加算についてのリモート研修会に参加し交流を図った。敷地内にある事業所とは、合同での会議や行事を開催しており、日常的に介護職員間の交流がある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 相談や実態調査の際本人様のお話を傾聴し、家族様を含め担当CMから情報頂き、信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 相談や実態調査の際本人様のお話を傾聴し、家族様を含め担当CMから情報頂き、信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | その時々状態に応じて、必要時は併設施設の老健、デイケアのサービス内容を説明し、他サービス利用も含めた対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 残存能力を活かして頂けるよう、畑仕事や食事作り、家事仕事等、利用者様にアドバイスを求めたり、喜びや達成感を共有できるよう支援している。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族様も知らない本人様の一面を引き出し、家族様へお伝えする事で共に理解し、支えていける関係性の構築に努めている。 | | |
| 20 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍ではありますが、可能な範囲での面会(通信機材を用いたの窓越し面会)にて交流して頂き、馴染みの方との関係性を継続していけるよう支援している。 | 3カ所の理美容師が来訪している。各入居者が馴染みの所と契約をしている。入居者が、行き慣れ親しんだ南方千本桜や平筒沼へ行き、記憶の想起をしてもらっている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 必要に応じて職員が仲介し、利用者様同士がより良い関係を継続できるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後(契約終了後)でも利用者様、家族様には何か困った事があれば相談してほしい旨お伝えし、継続的な関わりができるよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人様の生活の様子を観察し、会話の際の潜在的な希望の聞き取りができるよう努めている。その希望が実現可能かどうか検討し、家族様」の固有力が必要な際には随時相談している。 | 日常の何気ない会話から汲み取っている。「息子や孫に会いたい」等には、家族と連絡を取り電話で話しをした。役に立つことをしたい方には、軽い家事作業をしてもらい、自信を持って生活出来る様支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人様、家族様、担当CMより聞き取りを行い、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の暮らしの現状把握に努め、毎月のユニット会議にて総合的な把握に繋げている。 | | |
| 26 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人様の発言や行動、家屋に対する希望などを反映した利用者様本位の介護計画を作成している。また、モニタリングを行い、更新時には評価行っている。 | モニタリングとプラン作成は、3か月毎に行っている。家族の「やれる事は自分で」の要望があり、下肢筋力低下の方の手引き歩行を取り入れたり、洗濯物たたみ等の残存機能を活かす等をプランにした。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子を個々の支援記録に記録している。また、独自の個別生活表やサービス内容チェック表を活用し介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 医療的な支援が必要と思われるときは併設施設の看護師に指示を仰ぎ対応するなど事業所の多機能性を活かした支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 年2回の消防訓練やボランティアの依頼等協力しながら支援している。 | | |
| 30 | (13) | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居後も変更することなく、なじみのかかりつけ医の診察を受けている。 | 殆どの方が入居者前からのかかりつけ医に職員同行で受診している。受診後、家族に電話で報告をしている。コロナ禍前は、家族同行の受診であった。歯科は、必要時は歯科医が訪問診療をしている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設施設の看護師に相談したり、診てもらった事で日常の健康管理に役立っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中は本人様に面会すると共に病院の相談員と密に連携し本人様、家族様の意向を反映させた再入居を検討している。 | | |
| 33 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 定期的に面談を実施し、重度化した場合本人様にとってどこで過ごすのが一番良いのか必要に応じて話あっている。 | 「重度化・終末期(看取り)に関する方針」を文書化し、入居時に説明し同意を得ている。ホームでの生活が困難な場合や終末期と判断された場合は、他の施設等への入所支援がある。重度化の際は、家族や本人にとって不安やストレスの無い環境作りを目指している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時のマニュアル作成し、職員がいつでも閲覧可能な状態にしている。またADLなどの内部研修も実施している。 | | |
| 35 | (15) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 各災害のマニュアル作成している。火災訓練では併設施設と協力し、避難訓練を実施。水害対策など都度連絡体制及び初動を見直している。 | 地域との協力体制は、区長を通じ築いている。防災環境委員会があり、地震時の見回りや施設内の不備の点検、非常用食品の賞味期限、備品等の数量の確認を行っている。過去1年間での避難訓練は1回であった。 | 感染拡大のため延期になっていた防災訓練の避難訓練を早期に実施していただきたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (16) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 事業所の広報誌に写真を掲載する為、契約時に同意書の記入依頼すると共に個々のプライバシーに配慮し、記録に他者の事を記録する際はイニシャルにて対応している。 | 入室時は、ドアをノックし声掛けをしている。入居者や家族の要望で居室前の名札(氏名)を出さず、銀杏など植物の名札を出すなど居室を間違えないよう配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様が思いや希望を表せるよう、個々に合わせた声掛け、働き掛けを対応を心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様のバックグラウンドを把握、意向を優先し散歩や余暇活動、入浴、食事、クラブ活動などを支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者様個々のお好みにお任せしている。衣類選びに支援が必要な方については本人様の意向を確認した上で一緒に選んでいる。理美容は施設サービスを利用している。 | | |
| 40 | (17) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や片付けを一緒にしている。自分の役割として積極的に行って頂いている。食事の形態については咀嚼、嚥下しやすいよう調理しており、誤嚥防止の為食前には口腔体操を取り入れている。 | 献立は職員が入居者の好みや季節を感じる食材を取り入れ作成している。法人の栄養士に栄養のバランス等の相談をしている。ホームの開設記念日に寿司を食べたり、行事食は御膳風にして工夫をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事制限や食事バランスについては栄養士が行っている。また水分補給の機会を設けて脱水予防に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 日常の口腔洗浄は利用者様が各自行っている。支援が必要な方に関しては職員が対応している。外出から戻った際にはうがいをして頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (18) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 失禁の多い方に関しては個別生活表を活用し排泄パターンの把握、早め早めに誘導を行う事で失敗が少なくなっている。 | 個別生活表で水分摂取量や排尿間隔、重を把握し入居者に合わせた、声かけ誘導をしている。夜間ポータブルを使用している方がいる。日中は全員の方がトイレを使用している。主治医の指示で排便コントロールをしている方がいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分を自由に摂る事ができるように食事や間食時に配慮している。ウォーターサーバーを設置。また、ヨーグルト提供しており、散歩や体操行い体を適度に動かせる機会を設けている。 | | |
| 45 | (19) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている | 利用者様の個々のタイミングに応じて入浴を楽しんで頂いている。気分が乗らない方に関しては意向を尊重しつつ、清潔が保持できるよう声掛けの工夫を行っている。 | 入居者の希望する時間帯に週3回入浴をしている。シャンプーやボディソープは、備付けの物を使用している。面倒を理由に入浴を嫌がる方には、「薬を塗りましょう」等の声掛けを工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の適度な余暇活動にて生活リズムを作ってもらっている。午睡される方に関しては長時間にならないよう声掛け行い、夜間に熟睡できるよう配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師の指示を確認すると共に薬の効能をよく理解して利用者様が安心して服薬できるよう支援している。飲み忘れや誤薬防止の為服薬チェック表を活用している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の残存能力と意向を確認し、役割を持って生活できるよう支援している。行って頂いた際には感謝の言葉を忘れず、喜びや張り合いを持って頂けるよう支援している。 | | |
| 49 | (20) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 感染症対策行いながら天気の良い日には散歩に出かけ、地域への外出ドライブを行っている。 | 職員とゴミ出しをしながら敷地内を散歩したり、庭で紫蘇の葉や茗荷の収穫を楽しんでいる。天気が良い日は、車椅子使用の方も一緒に散歩をしている。保育所の子供達と出会った時は、手を振りあい笑顔になっている。戸外で生き活きと過ごせる支援をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的には職員が管理している。自己管理を希望される方に関しては、ご家族様に了承をもらい管理して頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族様が遠方や面会の頻度が少ない方について本人様のコメントや様子を観察し、ご家族様から本人へ電話など頂けるよう配慮している。 | | |
| 52 | (21) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の行事(ひな祭り:段飾り。七夕:竹飾り正月:水木、門松等)視覚から季節を感じて頂ける空間づくりに努めている。壁には広報紙や行事の写真を展示している。 | 日中は食堂兼リビングで過ごしている。ひな祭りには段飾り、七夕祭りには吹流し飾り、季節感を出せる空間作りに努めている。洗濯物たたみや調理の手伝いをしたり、新聞を読んだりしている。入居者にとって居心地の良い場を整えるよう心掛けている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | サロンにはソファを設置し、気の合う方々と会話を楽しんで頂けるよう、しつらえ行っている。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時にはできるだけ自宅にて使い慣れたものや好みの物を持ち込んで頂けるように働き掛け行っている。必要と思われる物に関しては都度家族様と相談し、用意させて頂いている。 | 洗面台やクローゼット、ベッド、エアコン、カーテンが備付けてある。使い慣れた筆筒やテレビ、家族の写真、位牌等を持ち込んでいる。本を読んだり日記を書いたり、その人らしく安心して過ごしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下やトイレに手すりを設置。浴槽内には滑り止めマット使用するなど安全な環境整備に努めている。 | | |